

健康アドバイス



丹下 マリ子 さん
(岡山県薬剤師会吉備支部から)

薬の種類がどれくらいあるか知っていますか？病院で処方される薬だけでも1万6000品目以上あり、最近ではドラッグストアなどで売られている市販薬もどんどん増えています。こんなに種類があると、自分の症状にはどの薬が適切なのか判断するのはなかなか難しいですね。「体調が悪いけど病院に行った方がいいかな」、「市販薬を買いた

今月のテーマ
かかりつけ薬局・薬剤師

薬局を上手に活用

いけどどれを選んだらいいのかな」と困ったことがある人も多いのではないのでしょうか。そんな時はぜひ、かかりつけ薬局の薬剤師に相談してください。

かかりつけ薬局・薬剤師とは、薬の一元管理を行い、自分の健康相談に乗ってもらえる薬局・薬剤師のことです。「お薬手帳」を利用し、薬を安全に使えるようにお手伝いします。

例えば、整形外科で膝の痛みに対してもらった薬と、風邪をひいて内科から喉の痛みに出された薬の、名前などが違って、含まれている成分が同じ場合が

あります。別の成分の薬でも、飲み合わせによる思わぬ副作用が起こる恐れもあります。飲んでる薬を記録し、薬剤師に見せることで、飲み合わせをチェックできます。また、「急に旅先で病院にかかった」、「災害に遭って避難した先で薬が必要になった」といった非常時にも役立ちます。

たくさん薬を飲んでいる人で、体調の悪い人はいませんか？薬の副作用はないですか？もし、薬を飲んで気になる症状がある場合は、遠慮しないで薬剤師に相談してください。

問い合わせ 健康医療課健康増進係 (☎92-8259)

特殊詐欺の種類

一購入を要求。カード番号からその額面をだまし取るものや、金融商品取引を装って「名前を貸すだけ」とうそを言い、了承すると「名義貸しは犯罪だ」と迫り、トラブルに巻き込まれたと不安にさせてお金をだまし取る。

3. 融資保証金詐欺

メールやファクシミリ、電話などで融資話を持ち掛け、申し込んだ人に保証金などの名目でお金を要求する。

4. 還付金詐欺

医療費や保険料の還付金があるかのように装い、電話で指示をしてATMを操作させる。

5. 金融商品取引名目の詐欺

架空や価値のない「未公開株」、「外国通貨」などのパンフレットを送り付け、購入すれば利益が得られると見せかけ、ATMを操作させる。

6. ギャンブル必勝情報提供名目の詐欺

数字選択式宝くじなどで当選番号が抽選前に分かる、競馬で必ず勝てるなどと持ち掛け、登録料や情報提供料名目でお金をだまし取る。

7. 異性交際あっせん名目の詐欺

メールなどで「交際できる異性を紹介」と嘘の内容を送り、申し込んだ人にあっせん料、仲介料を要求する。

監修・問い合わせ 総社警察署 (☎94-0110)

安全・安心

総社署からのすすめ

電話で「お金の話」が出たら、まずは詐欺を疑いましょう。特殊詐欺には、次のようなやり方があります。

1. オレオレ詐欺

息子や孫などになりすまし、会社でのトラブル、横領の補填、借金返済などを名目にお金を要求し、だまし取る。

2. 架空請求詐欺

有料サイトの未納料金を名目に、コンビニなどでの電子マネ



6月2日、総社市と神奈川県伊勢原市は、総社市役所で「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。

協定では、どちらかの市が地震や風水害などの大規模災害により被災した場合、応援要請に対して食料や飲料水などの供給、復旧

活動に必要な物資と機材の提供、職員の派遣などを行うことを定めています。

協定締結式には、片岡市長と伊勢原市の高山松太郎市長が出席し、協定書に署名。片岡市長は、「貴重なパートナーを得て本当にうれしく思います。互いに力を最大限に發揮して支え合えれば」と、高山市長は、「私たちも有事の際には全力を挙げて助けに向かいたい」と述べ、大規模災害発生時の相互応援を約束しました。

災害発生時は、近隣自治体でも同様の被害が想定されるため、同時被災のリスクが低い遠方自治体と支援体制を構築しておくことが重要で、この協定もそれが狙いです。

南海トラフ地震が発生した場合、総社市では震度6

弱、首都直下型地震が発生した場合、伊勢原市では震度7が想定されています。

協定を締結したことで、大規模災害での被災時に、互いの市が迅速かつ円滑に支援にあたるのが可能になりました。

今回の協定は、総社市と伊勢原市が、共に長野県茅野市と姉妹都市であったことから締結に至りました。

市が県外の他市と災害時相互応援協定を締結したのは伊勢原市で8市目です。



協定書を手にする高山市長と片岡市長

大規模災害発生時の相互応援を約束

問い合わせ 危機管理室 (☎92-8599)

協定

関東地区初 伊勢原市と相互応援協定

未来の総社を担う若者を育てる

そうじゃ若者塾 開講

市では、地域のリーダーとなる人材の育成を目指し、初の取り組みとなる「そうじゃ若者塾」を開講しました。

初回の5月31日には、塾長である市長が18人の塾生に講義。塾訓である「総社愛」を掲げ、政治家を志したエピソードや、市が「障がい者千人雇用」、「雪舟くん」、「英語特区」といった社会的に弱い立場にある人や周辺地域のための政策を重点的に推し進めていることを紹介しました。

そうじゃ若者塾は、2か月に1回程度開講し、講義やフィールドワークなど2年間で14回を予定。人を知り、歴史や文化、行政、観光などを学び、総社の未来を語り合っていきます。



そうじゃ若者塾第1期生の皆さん



第1回目の講義



問い合わせ 政策調整課 (☎92-8213)